



# いずみ

## No.64

街なかの美を守ろう

(題字 國松 明日香)

自作自選 34



《風待ち》

松隈 康夫

(2 ページに「作者の言葉」)

自分を運んでくれる風をじっと待つ種子があります。  
顕微鏡レベルですが、典型的なハニカム構造はとても精緻  
で美しく、存在の強さも感じる自然の創造物です。  
新しい風、穏やかな風が吹いてくれますように…  
(松隈康夫 札幌大谷大学芸術学部美術学科教授)

タイトル：《風待ち》  
制作年：2017年  
素材：木、熱溶融接着剤  
サイズ：H220×W350×D270 mm  
設置場所：作者所蔵

### オペラの衣装と舞台美術

業務係長 垣内陽子

7月末から札幌彫刻美術館で開催する展覧会、「オペラの衣裳と舞台美術」の準備に追われているところです。

これまでに引き続き、彫刻芸術の真価を伝えるとともに、彫刻を核とする多彩な立体芸術を紹介することを新たな方針の一つに据えた当館。今回の展覧会は、オペラの衣裳や小道具を立体造形と捉え、美術的な視点から展覧する取り組みです。

展示する作品は、東京の新国立劇場の「アイダ」公演で実際に使用される貴重なものです。新国立劇場の「アイダ」と言えば、劇場開場記念公演として1998年に上演されて以来絶大な人気を誇り、日本オペラ史上に輝く名舞台。舞台の上に古代エジプト世界をつくり出す豪華絢爛な舞台美術は息をのむばかりです。

古代エジプトの壁画を模した彫刻がされている神殿の石壁、素材はFRP（繊維強化プラスチック）です。その制作では、発泡スチロールで原型を作成し、その原型をもとに石膏で型取りをした後、FRPを流し込むという彫刻作品の casting と同じような過程を経ています。また、衣裳もアンティークの生地や細かな装飾など細部まで凝ったつくりになっています。通常、客席からしか観ることのできない大道具や衣裳を間近でご覧いただくことができます。

初演の際にイタリアの工房で制作されたこれらの品々は、全て職人達の手によるものです。総合芸術と言われるオペラの美術の要素に焦点をあてた本展、どうぞお楽しみに。





## 北海道百年記念塔問題への提言

井尻哲男（会員）

道は、劣化が進んでいる百年記念塔を存続させるか否かについて、今年11月にはその方向性を打ち出すとしているが、一部報道では先走りした「解体」という文字が紙面に踊っている。

私事ではあるが、近年、関心をもっていた歴史的建造物の保存問題は今年3月、北海道文化財保護協会の「北海道の文化」(Vol.90)に寄稿した「忘れられた野外音楽堂 大正七年 札幌 奏楽堂」を書き終えたことで、一応の区切りをつけ、卒業するつもりでいた。しかし、訳あってこの問題に再び首を突っ込むことになってしまい、その流れで、「北方ジャーナル」誌の6月号から10月号まで、その再生に向けた提言を行うこととなった。

さて、この稿では、同誌に書く内容を繰り返しても意味がないので、視点を変えた問題提起をする。

「忘れられた野外音楽堂」の最後にふれたが、当該問題解決の出発点は、解体か存続ではなく、「第三の道」を模索することから始めることを私は主張した。二者択一の設定の設定では、安易な解体に傾くのが通例であることからもお分かり頂けると思う。それが何であるかは、10月号で私なりの考えのアウトラインを明らかにするつもりでいるが、その前に第三者による別の素

晴らしい具体的アイデアが発表されるのかもしれない。いずれにしても、それらは道で検討頂けるだけの内容は充分もっていると確信している。

但し、これだけでは不十分であると思う。道は当該問題を百年記念施設、即ち、博物館、開拓村、そして百年記念塔のトータル再生というフレームワークで捉えているからである。また、道内の広い層の無関心を考えると、道を動かすには、よりトータルな提案が必要である。道は言う。「百年施設とその周辺エリアを自然・歴史・文化の体感交流空間として再生するために(云々)」と。ならば個々の拠点の見直しは個別に進めるとして、それとは別に、エリア全体を統一コンセプトのアートスポットとし、且つ、三カ所をアートの廻廊でつなげ、有機的結合を図ることを考えたらどうであろうか。

アートスポットとは何か、札幌芸術の森にあるダニ・カラヴァンの「隠された庭への道」をスケールアップしたものがヒントになる。瀬戸内海の直島やスペインのグッゲンハイム美術館のように、アートの力は地域の空間を根底から変える。それを作る力量のある作家は道内にもいる。再生を本当に考えるのならば、そこまでやらなければ駄目である。

彫刻家・山内壮夫の読み方について

友の会会長 橋本 信夫

岩見沢生まれで札幌に育った彫刻家・山内壮夫（1907—75年）の読み方については長い間、「ヤマノウチ」、「ヤマウチ」が混在して使われてきましたが、友の会はこのほど「ヤマウチ」と統一することにしました。このことは前号の会報「いずみ」（63号）でお知らせしたとおりですが、その経緯について述べてみたいと思います。

彫刻美術館友の会では2008年、山内壮夫生誕百年を記念してDVD「郷土の彫刻家山内壮夫の軌跡と芸術」を作成しました。このDVDを山内先生のご遺族に贈呈したのが縁で、長女の靖子さんと孫の晶子さんと親しく交流できるようになりました。こうした中で靖子さんから、山内の呼び名は先祖代々「ヤマノウチ」なのに、なぜ札幌では「ヤマノウチ」と呼ばれるのだろう。出されれば札幌でも「ヤマウチ」と呼んでほし

いとこの要請がありました。

そこで札幌市内にある山内作品28点を年代順に配列し、署名を手掛かりにして呼び名を確認することにしました。彫刻本体に刻まれた署名は漢字、ローマ字、署名なしの3種類だけなので、ローマ字表記を対象に調べました。

その結果、ブロンズ像では漢字表記が多く、唯一、「花の母子像」が「T.YAMAUCHI」でしたが、コンクリート像はほとんどがローマ字で「T.YAMAUCHI」と記され、「T. YAMANOUCHI」は全作品を通して《希望》像（1958年）1点のみでした。また、年代順に見ても《希望》像以前にすでに「T.YAMAUCHI」の署名のあることから、今後は友の会では山内壮夫の呼び名をすべて「ヤマウチ タケオ」に統一することとしました。

作品名	制作年	本体素材	本体署名	パネルの彫刻家名	環境	設置場所	備考	彫刻番	作家名
拓けこの宝庫	1949	ブロンズ	社・HON 1950		野外	中央区宮の森4-8-1札幌西斎	石膏原型1949 ブロンズ1995	1092	山内壮夫
労働運動犠牲者之碑	1949	石	山内壮夫設計		野外	月寒西1条4丁目月寒小公園		2680	山内壮夫
福野学生長像	1949	石膏	T. YAMAUCHI	YAMANOUCHI, Takeo	屋内	中央区北1西17道立近代美術館		2880	山内壮夫
永井一夫先生像	1951	ブロンズ	一九五一年夏 山内壮夫 永一		屋内	中央区北1西17道立近代美術館		1287	山内壮夫
よいこつよいこ	1952	コンクリート	1952 JUN T. YAMAUCHI		野外	中央区宮ヶ丘3-1円山動物園		1090	山内壮夫
浮遊	1952	ブロンズ	yama 1952	YAMANOUCHI, Takeo	野外	南区芸術の森2野外美術館		1269	山内壮夫
森の歌	1956	ブロンズ	山内壮夫1959	コンクリート1956 ブロンズ1959協力 青山 北市 堀江 セメント製型 松平実 古製作 山内一也 1958年	野外	中央区南10西2中島公園	コンクリート1956 ブロンズ1959 協力 青山 北市 堀江 セメント製型 松平実 コ製作 山内一也 1958年 北海道大種覧会記念	1097	山内壮夫
希望	1958	コンクリート	TAKEO YAMANOUCHI	制作設計 山内壮夫 制作助手 北村善平 セメント製型 松平実 台座制作 山本一也	野外	中央区大通西1		1084	山内壮夫
春風にうたう	1958	コンクリート	TAKEO YAMAUCHI 1958		野外	中央区南9西10南9条緑地		1089	山内壮夫
笛を吹く少女	1959	コンクリート	T. YAMAUCHI 1959		野外	中央区南10西2中島公園		1099	山内壮夫
猫とハーモニカ	1961	コンクリート	T. YAMAUCHI 1961		野外	中央区南10西2中島公園		1100	山内壮夫
母と子の像	1961	コンクリート	なし		野外	中央区南10西2中島公園		1101	山内壮夫
レリーフ 大地	1964	樹脂（ポリスチレン）	SHI N HONGO TAKEO YAMAUCHI CHURYO SATO 1963-64		屋内	中央区大通西4道銀本店		1029	本郷新・山内壮夫・佐藤忠良
躍進	1964	コンクリート	なし		野外	白石区本通7丁目南5-1ロバパン		2549	山内壮夫
鶴の舞	1965	コンクリート	yamauchi 1965		野外	中央区南10西2中島公園		1098	山内壮夫
昇天の橋（沖繩戦艦記念塔の橋）	1965	ブロンズ	なし		野外	南15条西5丁目札幌護国神社	沖繩戦艦記念塔（ロープウェー入り口前）か	2611	山内壮夫
エンブレム	1966	アルミ	なし		野外	中央区大通西2-5 北陸銀行西口		890	山内壮夫
鶴の舞	1966	アルミ	T. YAMAUCHI 1966	ASSI ST S. ITO K. KOSHJI I K. WATANABE K. SAI NE	野外	中央区大通西2-5北陸銀行屋上		1087	山内壮夫
はやぶさ（飛翔）	1967	ブロンズ	T. YAMAUCHI 1967	YAMANOUCHI, Takeo	野外	南区芸術の森2野外美術館		1270	山内壮夫
山崎屯田兵の像	1967	ブロンズ	山内壮夫 1967年		野外	中央区南29 西11		1093	山内壮夫
レリーフ 花と子供	1967	ブロンズ	なし		野外	中央区南2西4水野眼鏡店		1288	山内壮夫
羽ばたき	1970	ブロンズ	なし	T. YAMANOUCHI	野外	厚別区小野橋道立総合博物館前		1096	山内壮夫
花の母子像	1971	ブロンズ	1971 壮夫 T. YAMAUCHI	愛 山内壮夫作 1971 贈マルイ今井	野外	中央区大通西2		1085	山内壮夫
鳥養鳥	1971	ブロンズ	山内壮夫 1971年		屋内	中央区大通西2市役所1F		1086	山内壮夫
飛翔（男）	1971	ブロンズ	1971 山内壮夫	彫刻山内壮夫 寄贈日立製作所	野外	南区真駒内五輪大橋西南		1094	山内壮夫
飛翔（女）	1971	ブロンズ	1971 山内壮夫	彫刻山内壮夫 寄贈日立製作所	野外	南区真駒内五輪大橋西北		1095	山内壮夫
子を守る母たち	1973	ブロンズ	なし	YAMANOUCHI, Takeo	野外	中央区北1-17近代美術館		1088	山内壮夫
新渡戸稲造・萬理子両先生顕彰像	1974	ブロンズ	山内壮夫 1974年		野外	中央区南4東3新渡戸稲造記念公		1091	山内壮夫



北海道 150 年「北海道みらい事業」へ応募

「北海道史関連モニュメント彫刻 100 選」構想

「北海道」と命名されて今年で 150 年。数々の事業が展開される中、友の会は「北海道史関連モニュメント彫刻 100 選」の選出を計画、先の 2018 年度総会で了承された。総会に先立つ 3 月、橋本信夫会長は「第 24 回北海道地域ネットワーク（North）シンポジウム 2018」で「北海道史関連モニュメント彫刻 100 選」構想を念頭に「北海道史に関連したモニュメント彫刻の特徴と分布」と題して講演した。その要旨を紹介する。

**＜はじめに＞** 北海道開拓 150 年に及ぶ明治時代以降の歴史の流れの中でこれまで道内には 3000 点余りの野外彫刻が設置されてきた。そのうち、友の会が全道各地で収集した野外彫刻 2,852 点のデータの中から北海道の歴史や開拓史に関連して制作、設置された様々な作品を選ぶ。

**＜対象彫刻の選出方法＞** 2,852 点の彫刻の中から北海道の歴史に関わりのある著名な人物像、記念彫刻を「歴史モニュメント」と定義、さらに、①候補の人物像や記念碑のモデルが活躍した時代背景②彫刻家の特色と制作年代③彫刻のサイズ、素材、構造④具象、抽象⑤設置環境、劣化、破損状況⑥作品の芸術性など多角的な視点で選定する。

**＜野外彫刻の地域分布＞** 彫刻数は札幌と道央が多く、次いで道東、道北、道南、道東北の順で、札幌と道央地域で半数の 1,690 点を占めた。また、幹線道路に沿って分散する傾向を示した。

**＜モニュメント選出のカテゴリー＞** 道内各地に散在する 2,852 点を歴史モニュメントという要素を勘案して次の 5 つのカテゴリーに分類する。①道史関連肖像彫刻＝北海道で活躍し、全国的にも知られている歴史的人物②郷土史肖像彫刻＝全国的な知名度は低いが、地域での貢献度の高い郷土の重要人物③モニュメント彫刻＝北海道の歴史的事件を反映した庶民や物の彫刻④記念碑・レ

リーフ＝北海道の歴史的事件を記録した記念碑やレリーフ⑤一般彫刻＝彫刻芸術の鑑賞を目的に制作された作品。これを全彫刻で見ると別表の通り、道史関連の彫刻はわずか 61 点に過ぎず、②③④のカテゴリーに含まれるものが圧倒的だった。

**＜郷土史関連人物＞** このうち、①「道史肖像彫刻」に含まれる人物を道史年表を参考にピックアップすると次の人物が浮かび上がった。

シャクシャイン、高田屋嘉兵衛、ケプロン、間宮林蔵、

松浦武四郎、武田斐三郎、クラーク、島義勇、榎本武揚、ブラキストン、永山武四郎、大友亀太郎、土方歳三、関寛齋、前島密、黒田清隆、ダン、岩村通俊、クロフォード、伊達邦成

これらはほんの一部で、具体的な選定作業はこれらの人物の簡単な解説を含め、モニュメント彫刻分野からも対象作品を選び出すなど、北海道の歴史を彫刻で語るような内容にしたいと思って

地域	①	②	③	④	⑤	総数
札幌	22	29	35	31	643	760
道央	15	70	48	36	668	837
道南	8	13	9	20	170	220
道北	8	21	14	24	293	360
道東	8	29	26	15	393	471
道東北(オホーツク)	0	29	12	8	154	203
全道	61	191	144	134	2322	2853
作家数	40	76	25	51	586	778

①道史肖像彫刻②郷土史肖像彫刻③モニュメント彫刻④記念碑⑤一般彫刻

いる。

2018 年度彫刻美術館友の会総会

新企画「北海道史関連モニュメント彫刻100選」選定を目指す

彫刻清掃活動など例年通り

彫刻美術館友の会の2018年度総会が5月6日、札幌市民ホール（わくわくホリデーホール）で開かれ、新年度活動計画案、同予算案などを提案通り可決した。総会には会員40人が参加した。

総会は議長に猪股岩生会員を選出、17年度の活動報告、同決算、監査報告を原案通り承認した。

引き続き2018年度の活動計画として、「北海道史関連モニュメント彫刻100選」（仮称）の選定に取り組むほか、例年通り、野外彫刻清掃活動、本郷新記念彫刻美術館支援活動など多彩な計画を提案、それぞれ原案通り了承された。このうち「彫刻100選」は今年が北海道命名150年にあたることから、北海道が提唱する「北海道みらい事業」に応募、地域づくり総合交付金制度を利用して、



友の会が所有する全道の彫刻データから、本道の開拓に関連する野外彫刻100点を選び出そうという企画。この一年の特別活動の中心となる。

18年度予算案は総額957,804円が原案通り認められた。今期は役員の変更はなかった。

総会終了後、橋本会長が管理している道内の野外彫刻のデータを基に北海道の開拓に関連した彫刻の状況などについてスライドを使って解説した。

2018年野外彫刻清掃活動予定

2018年野外彫刻清掃活動予定				
6月	16	10:30	遠友夜学校跡地(中央区南4東4)	新渡戸稲造顕彰碑
	23	10:00	大通公園西3, 4丁目	「いずみ」ほか5基
7月	1	10:00	中島公園児童館	かもくま祭関連
	8	10:00	中島公園	「笛を吹く少女」ほか
	18	10:00	宮の森12丁目宮の森緑地	「太陽の母子像」ほか
	29	10:00	大通公園西2, 3丁目	「花の母子像」ほか
8月	18	10:00	中島公園	「鶴の舞」
	25	10:00	中島公園	キッツガーデン共催
	未定		中島公園	中島中学校連携
9月	未定		大通公園西5~12丁目	「漁民の像」ほか
9月	未定		羊ヶ丘展望台	「クラーク像」ほか
10月	未定		大通公園西10丁目	「ケプロン像」ほか



## 第5回友の会彫刻学習セミナー開催

## 「ルネサンス期フィレンツェのテラコッタ彫刻」テーマに 黒川弘毅、藤崎悠子、松本隆3氏が講演

彫刻美術館友の会が主催する第5回彫刻学習セミナーが5月19日、本郷新記念札幌彫刻美術館本館研修室で行われた。昨年からはまったセミナーの第5弾。今回は常田益代会員（北大名誉教授）の司会で午前から午後にかけて、約6時間にわたる長時間セミナーとなり、友の会会員ほか彫刻の専門家、美術館学芸員なども参加、専門的な意見交換が行われた。

まず黒川弘毅武蔵野美大教授が「屋外彫刻の固定における危険性と題して講演。同教授は札幌・中島公園の《木下成太郎像》の修復を巡り、何度も来札、友の会との交流も深く、おなじみ。野外彫刻にとっては永遠の課題でもある腐食の問題に触れ、鉄材と腐食の補修の問題点についてスライドを使いながら持論を披露した。

ついで午後から同大造形学部講師の藤崎悠子さんが「イタリア・ルネサンスのテラコッタ彫刻とロッセリア工房の施釉作品」のテーマで、イタリア美術の歴史と特徴を紹介しながら、15世紀フィレンツェの彫刻家ルカ・デッラ・ロッセリアを中心にしたロッセリア工房のテラコッタ作品の造形理念を解説した。

また、彫刻家で同大造形学部講師でもある松本隆さんは「ロッセリアのテラコッタ彫刻の再現に向けて—ワイン釉薬の話」の題で講演した。松本さんは昨年、ロッセリア工房のテラコッタ作品に使われる薬がワインの滓（かす）を成分にしていることからワインの滓を求めて余市を訪れた（「いずみ」63号に寄稿原稿）。その経験を踏まえて余市産のワイン滓から作った釉薬を施した再現テラコッタ作品と約500年前のロッセリア実作品の断片をかざしながら熱っぽく制作過程を語った。

セミナー終了後、参加者からは「それぞれの内容が大変刺激のかつアカデミックだった上、ルネサンス期フィレンツェのイメージまでも重なり、まるで大学での講義や実習を思わせるほど充実したものだった」などの声が聞かれた。



## 真駒内駅前からスタート

## 2018年野外彫刻清掃

2018年度の野外彫刻清掃活動が今年も始まり、5月24日、南区地下鉄真駒内駅周辺にある《ひとやすみする輪廻》、《牛



と少年》などを清掃し、会員による彫刻の解説も行った。

友の会の彫刻清掃は毎年、この真駒内から始まるのが恒例。この日は地下鉄駅前の《ひとやすみする輪廻》（丸山隆作）からスタート。ちょうど周りの花壇が準備中でクモの巣を取り除き、簡単に水拭きをして終了。第一公園の《牛と少年》（佐藤忠良作）では蜜蝋ワックスの効果が2年経つとなくなることが分かり、改めて塗布作業を行った。

## 事務局日誌

▼4月12日＝第1回定例役員会(エルプラザ)総会準備ほか▼5月6日＝2018年度総会(市民わくわくホリデーホール)新年度活動計画、予算など可決▼10日＝第2回定例役員会(エルプラザ)第5回彫刻学習セミナー開催準備▼15日＝地域づくり総合交付金申請書提出▼19日＝第5回彫刻学習セミナー(彫刻美術館研修室)黒川武蔵野美大教授ほか講演▼24日＝野外彫刻清掃活動スタート(地下鉄真駒内駅前)《ひとやすみする輪廻》ほか▼6月1日＝市文化部訪問＝《よいこつよい子》など修復状況、野外彫刻の管理体制など▼6日＝余市・小樽方面バスツアー(43人、小樽芸術村ほか見学)

## 編集後記

▼医療雑誌「ケア」の連載「さっぽろ野外彫刻美術マップ」が始まり、必要な彫刻写真の撮り直しのお手伝いをしている▼当初は3体で構成していた彫刻が1体だけになったものや、何もなかった背景にビルが建ったり、都市景観の変貌のスピードに改めて驚いている。(大内)

札幌彫刻美術館友の会

会報「いずみ」 No.64

2018年7月1日発行

発行人 橋本 信夫

編集者 大内 和

(札幌市清田区清田5-4-6-30

011-884-6025)

印刷 山藤三陽印刷

## 会報「いずみ」64号 目次

自作自選34 《風待ち》	松隈康夫	表紙
作者の言葉		2
宮の森の四季34「オペラの衣装と舞台美術」	垣内陽子	2
風見鶏「北海道百年記念塔問題への提言」	井尻哲男	3
寄稿「彫刻家・山内壮夫の読み方について」	橋本信夫	4
レポート「北海道史関連モニュメント彫刻100選」構想		5
友の会ニュース		6-7
2018年友の会総会/2018年彫刻清掃予定表/第5回彫刻学習セミナー開催/2018年彫刻清掃スタート		
事務局日誌、目次、美術館行事予定ほか		8

## 本郷新記念札幌彫刻美術館行事予定

### 本館

#### ■子ども育成事業

#### わくわく★アートスクール2018作品展

6月26日(火)～7月16日(月祝)

彫刻美術館の近く大倉山小と三角山小の児童が2人のアーティスト、jobin、ダム・ダン・ライと共同制作した作品を展示する。

#### ■市民交流プラザ開館記念連携事業

#### オペラの衣装と舞台美術 きらめ 煌く「アイーダ」の世界

7月27日(金)～10月25日(木)

総合芸術と言われるオペラの美術の衣装や小道具などを展示。

### 記念館

#### ■コレクション展

#### 本郷新、その生涯と作品

(通年)2019年3月31日(日)まで

本郷新が手掛けた野外彫刻の石膏原型やブロンズ、木彫など代表作、制作道具などを展示。

#### 本郷新記念札幌彫刻美術館

札幌市中央区宮の森4条12丁目 ☎011-642-5709

友の会ホームページ公開中です！ご覧ください

<http://sapporo-chokoku.jp>